

日本統計学会第67回大会

日本統計学会（会長：三浦由己・駿河台大学教授）の第67回大会（大会運営理事：山本英二・岡山理科大学教授、プログラム編成委員長：村上征勝・統計数理研究所部長）が1999年7月28日（水）～31日（土）の4日間にわたって岡山市の岡山理科大学で開かれた。7月28日（水）の午前には「グラフィカルモデリング」（講師：宮川雅己・東京工業大学教授、中西寛子・成蹊大学教授）、午後には「共分散構造分析」（講師：狩野裕・大阪大学教授、市川雅教・東京外国語大学教授）とそれぞれ題されたチュートリアル・セミナー（担当理事：永田靖・岡山大学教授）が開かれ、非常に盛況であった。ミクロデータの分析が大きな位置を占めつつある人口学の研究者にとっても非常に有用な勉強の場であった。翌29日（木）から31日（土）の午前にかけて35セッションで研究報告会が開催されて約200件の報告がなされた後、31日午後には日本学術会議統計学研究連絡委員会主催で「21世紀に向けての統計科学の課題と方向」と題されたシンポジウムが開催された。学会の性格上、人口に関連する報告が特に官庁統計に関するセッションで少なからず行われたが、31日午前が開かれた「人口統計」と題されたセッションでは以下の4報告がなされた。

- 1 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）、Jean-Louis RALLU（フランス国立人口研究所）「新たな出生力指標の日仏比較」
- 2 磯野 修「女兒出生率と安定人口の増減率」
- 3 大久保正一（日本大学）「原爆死と人口動態統計」
- 4 大久保正一（日本大学）「敗戦思春期世代の死亡(2)」

なお、30日午後には「統計の役割 - 新しい世紀に向けて」と題された会長就任講演が日本人口学会会員でもある三浦由己教授によって行われた。また、来年度大会は北海道大学で開催されることになっており、地の利を得ているため更に盛況になることが期待される。（小島 宏記）

経済統計学会第43回全国総会

経済統計学会第43回全国総会は、1999年9月18日（土）、19日（日）の2日間、明治大学駿河台校舎リパティホールで行われた。6つのセッションのうち、2つはシンポジウム（「労働と生活の社会的指標」、「アジア経済の統計分析」）であった。人口に関連する報告は以下のとおりである。

1. 伊藤伸介（九州大学大学院）「ミクロ社会モデルに関する一考察」、2. 藤岡光夫（静岡大学）、森博美（法政大学）、良永康平（関西大学）、金子治平（神戸大学）「ミクロデータによる職業別死亡統計の国際比較分析」、3. 岡部純一（岩手大学）「官僚制的組織と業務統計」の3報告である。

そのうち、藤岡等による報告は、日本の人口動態統計の個票データを用いた職業別死亡の国際比較の分析で、(1)国際比較上の問題点および比較作業手順の整理、(2)日本の特徴分析、(3)今後の研究課題についての報告である。職業別死亡における日本の特徴は、北欧諸国平均に比べて死亡水準は低いが、職業間格差が大きい。北欧諸国では専門技術・管理職の上層階層の低死亡水準と建設労働者、生産作業職従事者、サービス労働者などの下層階層の高死亡水準が対照的である。しかし、日本では非サービス業の専門技術職、卸小売・サービス業のサービス職の高水準と管理職、製造業の生産作業職の低水準が対照的であるとの報告がされた。（山本千鶴子記）